



No Hit Zone

体罰の代わりに、ポジティブなしつけを実践しましょう

学童の親御さんへ

スパンキング(ピシャリと叩く程度の体罰)でも、体罰は害になります

ご存知ですか？

スパンキングは脳を委縮させます

ハーバード大学の行った研究では、月に1回程度でも叩かれて育っている子どもは、脳の意思決定領域の容量が14-19%小さくなっていたと報告されています¹

ご存知ですか？

1574もの研究がスパンキングの有害性を示しています² スパンキングは、以下の問題を子どもに引き起こします

- **心理精神的な問題が増えてしまいます。**
10件の研究が、スパンキングは子どもに心理精神的な問題を生じさせると報告しています。
3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12
- **反社会的な行動が増えてしまいます。**
9件の研究が、スパンキングは子どもの反社会的問題行動を生じさせると報告しています。
7, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
- **攻撃性が高まってしまいます。**
9件の研究が、スパンキングは子どもの攻撃性を高めると報告しています。
6, 12, 13, 14, 15, 21, 22, 23, 24
- **親子の関係性を悪化させます。**
5件の研究が、スパンキングは親子の関係性を悪化させると報告しています。
6, 25, 26, 27, 28
- **自己肯定感が低下してしまいます。**
9件の研究が、スパンキングは子どもの自己肯定感を低下させると報告しています。
8, 26, 29
- **挑発的な行動が増えてしまいます。**
13件の研究が、スパンキングは子どもの挑発的行動を増加させると報告しています。
24, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41
- **薬物の問題を抱えやすくなります。**
4件の研究が、スパンキングは子どもの薬物の問題を増加させると報告しています。
42, 43, 44, 45
- **自分自身をコントロールできず、非行が増えてしまいます。**
11件の研究が、スパンキングは子どもの自己制御能力を低下させ、非行の問題を増加させると報告しています。
6, 18, 38, 43, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 56
- **身体的損傷が増えてしまいます。**
7件の研究が、スパンキングを受けている子どもは身体的虐待被害児のことが多いと報告しています。
4, 52, 53, 54, 55, 56, 57

ご存知ですか？

スパンキングはIQを低下させます。

ニューハンプシャー大学の研究では、体罰を受けずに育った子どもに比べ、2~4歳の時にたたかれて育った子どものIQは、5ポイント低く、5~9歳の時にたたかれて育った子どものIQは2.8ポイント低くなっていた、と報告されています。⁵⁸

ご両親へ 小児科医からのメッセージ

- スパニングは、時とともに不安や攻撃性を増大させます。両親により何度も叩かれて育った子どもは、そうでない子どもと比べ、2倍以上攻撃的になることが分かっています。Shawna J. lee先生/Catherine A. Taylor先生
- 叩かれた瞬間は、恐怖から子どもはあなたの言うことを聞くかもしれませんが、しかし実際には、その後の子どもの行動変容にはつながらないのです。Elizadeth T. Gershoff先生
- スパニングの有害性につき論じた研究は数多くありますが、それが良い効果をもたらし、子どもの問題行動が改善したとの報告は、世界で1つありません。Stacie LeBlanc先生
- スパニングをした後に、愛情深く接したとしても、スパニングの負の影響を打ち消すことにはなりません。叩かれた後に母親に慰められるという体験が繰り返された子どもは、時とともに不安が増加していきます。Jennifer E. Lansford先生
- 大人からの性虐待被害を打ち明けられない子どもの中には、親に話すことで叩かれたりお尻を蹴られたりするのが怖い子どもが多いのです。Neha mehta先生

参考文献

- 1, Tomoda, A. (2010). *Neuroimage*, 47(Suppl 2), T66-T71.
- 2, Gershoff, E.T., (2010). *Child Development*, 81(2), 487-502.
- 3, Buehler, C. (2002). *Journal of Marriage and the Family*, 64, 78-92.
- 4, Bugental, D. B. (2003). *Hormones and Behavior*, 43, 237-244.
- 5, Christie-Mizell, C. A. (2008). *Family Relations*, 57, 335-350.
- 6, Kandel, D. B. (1990). *Journal of Marriage and the Family*, 52, 183-196.
- 7, Kohrt, H. E. (2004). *Child Psychiatry and Human Development*, 35, 163-181.
- 8, Lau, J. T. (2003). *Child Abuse & Neglect*, 27, 63-75.
- 9, Li, Y. (2001). *Pediatrics International*, 43, 651-661.
- 10, Lynam, D. R. (2009). *Youth Violence and Juvenile Justice*, 7, 189-207.
- 11, McLoyd, V. C. (2007). *Journal of Family Psychology*, 21, 165-175.
- 12, Sears, R. R. (1961). *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 63, 466-492.
- 13, Boutwell, B. B. (2011). *Aggressive Behavior*, 37, 559-568.
- 14, Flynn, C. P. (1999). *Journal of Marriage and the Family*, 61, 971-981.
- 15, Gunnoe, M. L. (1997). *Archives of Pediatric and Adolescent Medicine*, 151, 768-775.
- 16, Jackson, A. P. (2010). *Race and Social Problems*, 2, 50-58.
- 17, Kahn, M. W. (1995). *International Journal of Social Psychiatry*, 41, 55-73.
- 18, Oyserman, D. (2005). *Journal of Adolescence*, 28, 443-463.
- 19, Slade, E. P. (2004). *Pediatrics*, 113, 1321-1330.
- 20, Straus, M. A. (1997). *Archives of Pediatric and Adolescent Medicine*, 151, 761-767.
- 21, Berlin, L. J. (2009). *Child Development*, 80, 1403-1420.
- 22, Pagani, L. S. (2004). *International Journal of Behavioral Development*, 28, 528-537.
- 23, Westbrook, T. R. (2013). *Early Education and Development*, 923-945.
- 24, Coyl, D. (2002). *Infant Mental Health Journal*, 23, 145-163.
- 25, Joubert, C. E. (1991). *Psychological Reports*, 69, 115-120.
- 26, Larzelere, R. E., (1989). *Psychological Reports*, 64, 1140-1142.
- 27, Palmer, E. J. (2001). *Applied Cognitive Psychology*, 15, 85-100.
- 28, Talillieu, T. L. (2013). *Journal of Family Violence*, 28, 445-458.
- 29, Bakoula, C. (2009). *Stress*, 12, 486-498.
- 30, Barnes, J. C. (2013). *Developmental Psychology*, 49, 2272-2284.
- 31, Choe, D. E. (2013). *Developmental Psychology*, 49, 2029-2039.
- 32, Eisenberg, N. (2009). *Development and Psychopathology*, 21, 455-477.
- 33, Hesketh, T. (2011). *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology*, 46, 733-741.
- 34, Lansford, J. E. (2012). *Family Relations*, 61, 224-236.
- 35, Maguire-Jack, K. (2012). *Child Development*, 83, 1960-1977.
- 36, McKee, L. (2007). *Journal of Family Violence*, 22, 187-196.
- 37, McLeod, J. D. (1993). *American Sociological Review*, 58, 351-366.
- 38, Mulvaney, M. K. (2007). *Journal of Family Psychology*, 21, 389-397.
- 39, Olson, S. L. (2002). *Journal of Clinical Child & Adolescent Psychology*, 31, 419-430.
- 40, Regev, R. (2012). *Infant and Child Development*, 21, 34-51.
- 41, Baer, D. J. (1974). *Journal of Genetic Psychology*, 124, 99-103.
- 42, Fergusson, D. M. (2008). *Child Abuse & Neglect: The International Journal*, 32, 607-619.
- 43, Lynch, S. K. (2006). *Journal of Family Psychology*, 20, 190-198.
- 44, Tennant, F. S. (1975). *Journal of Epidemiology*, 102, 377-385.
- 45, Burton, R. V. (1961). *Child Development*, 32, 689-710.
- 46, Grinder, R. E. (1962). *Child Development*, 33, 803-820.
- 47, Olson, S. L. (2002). *Journal of Clinical Child & Adolescent Psychology*, 31, 419-430.
- 48, Power, T. G. (1986). *Developmental Psychology*, 22, 271-275.
- 49, Regev, R. (2012). *Infant and Child Development*, 21, 34-51.
- 50, Zahn-Waxler, C. (1979). *Child Development*, 50, 319-330.
- 51, Foshee, V. A. (2005). *Journal of Early Adolescence*, 25, 317-344.
- 52, Frias-Armenta, M. (2002). *Child Abuse & Neglect*, 26, 371-386.
- 53, Gagné, M. H. (2007). *Journal of Interpersonal Violence*, 22, 1285-1304.
- 54, Hemenway, D. (1994). *Child Abuse & Neglect*, 18, 1011-1020.
- 55, Herzberger, S. D. (1981). *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 49, 81-90.
- 56, Trickett, P. K. (1986). *Developmental Psychology*, 22, 115-123.
- 57, Zolotor, A. J. (2008). *American Journal of Preventive Medicine*, 35, 364-369.
- 58, Straus, (2009). *Journal of Aggression Maltreatment & Trauma*; 18 (5): 459.

学童の親御さんへ

体罰によらない子育てを実践しましょう

成績が悪い

簡単に勉強についていける子もいれば、成績を上げるのにあなたの助けを必要とする子もいます。

このような言動の代わりに

- 「本当に頭が悪いのね!」
- 「(国語)なんか、全然だめじゃない」
- 「こんな簡単な問題が、なんでできないの?」
- 「まるでいい所がないね」

こうしてみてもいかがでしょうか

- 「(算数)はすごい良くできたね! (国語)はまだまだ伸びしろがあるよ」
- 「まだ(九九)を習っていないから仕方ないよね。でもね、一緒に取り組んだら直ぐにできるようになるよ」
- 「どうやったらもっと成績が良くなるだろう?」
- 「一緒に勉強し合える友達はある?」
- 学校でしっかり勉強に集中できるためには、十分な睡眠をとる必要があります
6~13歳の子どもは、9~11時間は寝ることが望まれます
- 毎日、宿題や勉強をする習慣を作る手伝いをしてあげましょう

学校にうまく適応できない

子どもの問題に真摯に向き合い、子どもが行動を変えることが出来るために、労を惜まずに対応する必要があります。

このような言動の代わりに

- 「そんなトラブルを起こすなんて、どうしようもない奴だ」
- 「さっさと刑務所でもどこでも、入ったらいい!」
- 「二度そんなことをする気が起きないように、今から殴るからな」

こうしてみてもいかがでしょうか

- 「担任の先生から電話があったわよ。学校で何かあったみたいね。何があったか(お母さん)に話してくれる?」
- 「もし学校を〇〇ちゃんの思い通りにできるなら、どうなって欲しいと思っているの?」
- 「学校でもっとうまく過ごすことが出来るようになるために、どうしたらいいと思う?」

きょうだい喧嘩

子どもはきょうだい喧嘩を通じ、力の加減や、他者への共感を学びます。

このような言動の代わりに

- 「今すぐけんかをやめなさい!」
- 「いつも喧嘩ばかりして!今から二人とも叩くからね」
- 「1か月、テレビを見るのは禁止だからね!」

こうしてみてもいかがでしょうか

- 「喧嘩しないで一緒に遊んだら、もっと楽しいことができるんじゃないの?」
- 「タイマーをかけて、(弟と)“順番こ”で遊んでみようね」
- 「(妹は)〇〇ちゃんより年下だから、“順番こ”の意味がわからないみたいね。お手本をみせてくれる?」
- 「このおもちゃで(弟と)遊ぶと喧嘩になっちゃうなら、今日は(お母さん)が預かるから、これで遊ぶのはまた明日にしようね」
- 「あなたたち二人が何を視るのか決めるまで、(お母さんが)テレビのリモコンは預かっておくわね」

お子さんの気になる行動上の問題

今はこちら対応しています

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

今後はこうしてみようと思います

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

お子さんの気になる行動上の問題

今はこちら対応しています

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

今後はこうしてみようと思います

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

お子さんの気になる行動上の問題

今はこちら対応しています

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

今後はこうしてみようと思います

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____

宣誓書：私は体罰をしません

私はしつけの際に、いかなる暴力も用いません。子どもを小突いたり、叩いたり、殴ったり、鞭で打つようなことはしません。

私は、体罰が子どもの身体的・知的・心理的な健康を損ない、親と子の関係性を不健全なものにしてしまう可能性があることを理解しました。

私は、科学的研究により、たとえ軽微なものであったとしても体罰には効果がなく、有害で、脳に悪影響を及ぼすことが証明されていることを理解しました。

私は、暴力はしつけをする際にも、リーダーシップを発揮する際にも、感情を表現する際にも、受け入れがたい方法であることを認め、問題解決の際には、より効果的なポジティブな方法を用いることを誓います。

日付 _____年 ____月 ____日

氏名 _____

